

平成19年度長崎県地域限定通訳案内士試験合格者の声をお届けします。

(原文のままです。)

英語合格者から

Aさん

過去問はネットで数年間分は取れるので、ちょっと解いてみました。難しくてびっくり！そのあと、「ガイド通訳案内業試験英語完全対策」法学書院を購入してひと通りやりました。

試験が9月にあるようだとわかってからは、とにかく短期決戦でした。以下は主に使用したテキストや媒体と、一次にも2次にも使えるようにとまとめたノートの活用についてご紹介いたします。

通訳ガイド試験 英単必携(九州通訳ガイド協会)

通訳案内士国家試験にでる日本の事象英文説明300選 (ハロー通訳アカデミー)

¥1000 CD有り (録音してしょっちゅう聞いていました。)

英語で意見を論理的に述べる技術とトレーニング ペレ出版

英語で紹介する日本と日本人 NOVA BOKKS

なぜ、日本人は? 答えに詰まる外国人の質問178 Japan Book

インターネット利用 Japan Times の記事をピックアップ(自分なりに日本の事象、大事な時事問題と思われるものや、日本文化の紹介の記事、editorial など)をプリントアウト

私はもともと Japan Times が読みやすかったので、自分が好きな媒体でいいと思いますが、時事については新しいものを常に見ておいた方がいいと思います。

上記の物を核に、1次試験の前までに3冊のノートを作りました。

(1) 300選+

(2) 300銭+

(3) Topics

(1)(2)に関しては文字通り、300選の内容に上記 から、この表現は使える、なじめる、と思う文章を自分が使いやすいようにまとめて書き足していきました。

(3)に関しては、 の見出しを参考にして、項目別に(例 ecology, family life, politics and International relation, Aging society, Internet otaku 等)上記 から自分の説明しやすいように文章をまとめて書き出しました。

この3冊のノートは実際に知識の整理をする際にとても役に立ちます。

二次試験の前には、どんな問題が出るのか全く分からず、とにかく時間がなかったので、英語のパンフレット、長崎について書かれた英文資料を集められるだけ集めて、又インターネットで英語のHPがある市町村に関してはすべてプリントアウトして、また、外国人が書いた長崎についての editorial なども検索して取り出し、地域別にファイルにどんどんまとめていきました。これも自分にとって使いやすい部分のみならず、アンダーラインを引いて行きました。(HPについては要注意です。間違った情報が結構あります)すべてについてノートをまとめる時間はなかったので、特にやまをかけて自分なりに考えをまとめておきたいことだけをピックアップし、

Nagasaki Topics という4冊目のノートを作りました。

たとえば、今話題の World heritage sites, Nagasaki Churches and other Christian assets, や、Sakoku, Dejima, Events, Climate などです。

この場合、基本はまず日本語で内容が理解できていることだと思います。

実際の2次試験ではもっと基本的な質問が多かったです。このノートは実際のガイドの下準備の際に活用できますので、無駄にはなりませんでした。

本番の2次試験での質問は、原爆の被害についての説明、長崎と広島原爆の違い、グラバー園についての説明、グラバーらの功績、なぜ蝶々夫人の銅像があるのか？おすすめの食べ物、ちゃんぽんって何？などでした。

英語の一次試験の場合は一昔前の過去問に比べて、近年実用的な問題に推移しているようです。

実際試験に出た問題はよく聞かれそうなことばかり。試験のための勉強も全てとっていいぐらい元々の私の仕事（観光案内）にも、ガイドの仕事にも役に立つものです。以下はすべて私が実際に聞かれたことです。焼酎と酒の違いは？あの魚の飾りは何？（鯉のぼりでした）なぜ今は vacation のはずなのにこんなにたくさんの制服を着た学生がうろうろしているのか？長崎にキリスト教信者は多いの？あの花（モクレン）は何？ちゃんぽんって中華料理？それとも日本料理？等等。いってみれば毎日日本、長崎で生活していることすべてがガイドのための勉強になるといっても過言ではないと思います。

もう一つお勧めなのが、NHKのニュースを二ヶ国語で聞くことです。知識と英語表現の両方の勉強が効率よくできます。

上記はとにかく試験直前の約半年間で行った勉強方法です。

おそらくその前に文法の基礎力をあげておくことが第一条件だと思います。私の場合、数年前のTOEICの点数が、自分が思っていたよりも低くて不本意だったのにショックを受けたことがあります。自分ではリスニングが弱いのではと思っていたところ、どこで点数が低いのかと思ったらなんと文法でした。通じるからいいと思って基本を忘れ、実は文法で点数を落としていたのです。そこで、「TOEIC 文法急所総攻撃」、「同鉄則大攻略」を2冊仕上げ再度挑み、50点上がったことがあります。後で聞いた話、ガイドの一次試験は細かい文法ミスもどんどん減点されるとのこと。この数年前の前準備（結果的にですが）がなかったら、合格はなかったかもしれません。高校生用の文法、英作文の問題集を使われる方もけっこういらっしゃるみたいです。自分に合ったものを探して頑張ってください。

Bさん

試験に合格するにあたり、最大の難所は、語学でした。

私の場合、日常会話は不自由なくできますが、試験に合格するか否かという観点で見ると、独特の勉強をしない限り難しかったです。

まず、試験内容は、過去問を見て、年々易しくなっているとはいえ、2時間という限られた時間の中で、記述の多い問題を解かなければなりません。過去の問題を解き、自分なりの試験配分を組み立て、それに向けての勉強をしました。そして、日本の文化や伝統など、日頃から興味を持ち、ハローアカデミーという通訳案内士になるための専門学校の教材で勉強しました。

毎年ほぼ出題される「日本の事象関連」。昨年は、「回転ずし」の「英訳」と「花粉症」に関する

るものでした。試験問題6ブロックの中の2ブロックに値するこの問題は、日頃から予想問題として考えていないと30～40分内では記載が難しいと思われます。文法、スペルはもちろん“pollen”“hay fever”“allergic”“cedar”“circulating sushi”などのキーワード、食生活や習慣、環境問題など幅広く勉強し、ある程度用意しておかなければならないのです。

長崎県内には、沢山、英会話を得意としている人がいます。是非、この資格にチャレンジしてください。

Cさん

今回、今年度受験をお考えの方の参考になるように、合格体験記を書けと言われて書き始めたわけですが、考えれば考えるほど私の経験は役に立たないと思えるようになり、「こんな事ではだめだぞ」と言う参考にして頂けるのであればと、考え直して書いております。

まず、受験の動機は他の合格者方々と違い明確ではありませんでした。長崎のために何かできることはないだろうかと言うのが唯一の理由です。家内がこんな事が始まるよと言うので、力試しで受験することにしました。

準備のために最初におこなったのは参考書探しです。近くの本屋で通訳案内士関連の本を探し、坂本先生の書かれた、「2007年度通訳ガイド必勝攻略ゼミ」を購入しました。正直な話、たまたま坂本先生の本だったわけで、後日ご本人にお会いできるとは思っていませんでした。

実は、その本を見て絶望しました。自分の実力ではとても通訳案内士にはなれないと思ったのです。諦めようと思いましたが、初期投資をしてしまいましたし、事前講習にも申し込んでいましたので、参加することに意義を見出すことにしました。

また、英語の試験の傾向が「超絶技巧型(東大入試型)」から「なんとか対応できるかな型」に変わってきたのは助かりました。

何十年か前の大学入試のときに日本史を避けて地理で受験したほど歴史は苦手でした。

と言うことで、年齢からして新しいことを覚えるのは大変なので、英語に関しては自分の知識のおさらいを中心にしました。長崎に関しては「長崎学への道案内」を繰り返し読みました。どちら通勤電車の中が勉強部屋でした。

つまり、基礎編を徹底しただけですので、いずれの課目もぎりぎりですすまして思いますが、とりあえず合格できました。

自分が知っているところは取りこぼさないという考えですが、これがこの文章の中で唯一、受験される皆様に参考になるかなと思われる部分になるでしょうか。

私は県外に居住しており、仕事の関係からすぐに通訳案内士の仕事を始められる環境にありません。県観光振興推進本部の方々には大変お世話になり心苦しいのですが、できるだけ早く長崎に戻ってお役に立ちたいと思っております。

最後になりますが、今後多くの方々が合格されることを願っております。

Dさん

平成19年度から始まる長崎県地域限定通訳案内士試験で、英検1級保持者は英語の受験は免

除されるということを知りました。これが受験のきっかけになりました。1964年に英検1級を取得しておりました。長崎県内の公立高校に40年半勤めさせてもらいました。全身全霊をささげてきた「受験英語」力の維持向上のため、毎日佐世保市立図書館に行ってThe Japan Timesを読む、休館日の月曜と祝日は佐世保駅へ行ってThe Daily Yomiuriを買って読む、を続けてきました。毎日曜日16:00-18:00には、「タイム」を読む会に参加し、ボランティアで来てくれるアメリカ人を先生に、「タイム」記事を読みながら、質問・意見・感想・討論を行ってきました。全員元気潑刺です。転勤のため顔ぶれは変わりますが、講師6人が交替で必ず1人来てくれます。佐世保ならではの、活きた英語に接することができます。「スヌーピー」「ビートルベイラー」が私の会話表現のお手本です。英米文学は、講談社のDaddy-Long-Legsなど「ふりがな」つきシリーズを、辞書を引かなくてどんどんストーリーを追って行けるし、語彙もうんと増えるので、たくさん愛読しました。邦文問題は、「長崎学への道案内」(文献社)「旅する長崎学」(文献社)「長崎県の歴史散歩」(山川出版社)メルマガ長崎県の「長崎教会群とキリスト教関連遺産」などの記事、「ライフさせぼ99の」、例えば「ジュリアンの夢」などを楽しく読んで、準備しました。英語の2次試験口述テストの準備は、「長崎学への道案内」から問われそうな名所旧跡などをピックアップし、パソコンの「翻訳エディター」を使って英訳し、自分で表現できる英文に仕上げました。さらに、ライフさせぼ99に紹介してあった「私はローマを見た中浦ジュリアンだ」と叫んで、雲仙で穴吊りの刑で殉教した、西海市横瀬浦出身の、天正遣欧使節の一人である中浦ジュリアンの話に感動し、記事全文を英訳し、口述試験に備えました。長崎県限定通訳案内士では、ガイドする顧客が例えば、ハウステンボス、九十九島、平戸観光のあと、さらに有田・伊万里・嬉野・武雄へ足を伸ばしたい、と言ったら、この免許では佐賀県の案内はできないので、県境でさよならということになります。今年は、「地域限定」の制限をはずしたいです。72歳もあと1ヶ月残すのみの石橋勇次には、団体のツアーガイド業を今から始めるのは無理じゃないかな、と悔しい思いをしています。ただ、退職後ご夫妻で観光旅行を楽しんでおられるカップルなど、少人数の人たちに、「人生は長い、人生は楽しいこともいっぱい、石橋さんの話を聞いてさらに生きることが楽しくなった!」と思わせるようなガイドを目指したいです。たくさんの方が長崎県地域限通訳役案内士・通訳案内士をめざしてほしいと心からお願いいたします。某学校の校門脇の銘板に「ほんものは続く 続ければ本物になる」と書かれています。至言ですね。

Eさん

平成20年2月8日、金子県知事より合格証書を手渡していただいた時には、あるきっかけを大切に勉強してきたよかったと思えました。というのは、受験してみようとおぼろげながら決めた時には、この試験の価値が十分に理解できていなかったからです。

きっかけというのは、通訳案内業国家試験を持つ先輩から受験を勧められたことです。地域限定の試験なので日本全国を網羅した国家試験よりずっと受験しやすい試験内容だとのことでした。これまで国家試験の受験を考えたことは何度かありましたが、合格率が非常に低く、暗記する内容も果てしないとの印象を拭えず受験には至りませんでした。9月1日・2日の一次試験は、すでに約1ヶ月半と迫っていましたが、これも何かのご縁だと思い受験することにしました。

以前ボランティアで外国の人々を観光案内したことが何度もあったので、正式な資格取得は将来役に立つということも動機となりました。英語で受験しましたが、英検一級に合格していたので英語は受験免除となり、長崎県の(1)歴史(2)地理(3)産業、経済、政治及び文化、の

三科目の試験を受けました。今回が第一回目の試験ということで、過去の試験問題やその手がかりもありませんでしたが、他の受験者も同じ受験環境だろうと楽観的に構えました。その状況下で、私の勉強した方法をご紹介します。

1 正式テキスト「長崎学への道案内」を時間を見つけて繰り返し読む。平日は会社勤務もあり、まとまった時間がとれなかったが、旅先、待ち時間や移動時間などこま切れの時間を利用した。受験までに三回通して読んだ。

2 県主催の事前講座を受ける。この無料講習会は、長崎県立大学（シーボルト校・佐世保校）にて遠隔授業システムによる講座が8月の週末4日間行われた。専門の講師による各科目の重要点の概要を把握した。

3 実際に観光地などを訪れてみて、学習意欲を高める。テキストで興味を持った、平戸、生月、黒島、宇久に足を運んでみた。その景色や海の色のはくは、予想をはるかに超えていた。

4 二次試験（12月16日）の面接対策は、通訳案内業国家試験の過去問題に目を通した。ふりかえってみると今回の二次試験内容とは異なる内容だったが、少なくとも面接試験時に落ち着いて臨むことができた。

勉強を進めるにつれて、長崎県の未知のすばらしさを発見することになりました。そして、以前の私のように、この珠玉の財産について知らない人々にぜひわが県のよさを伝えたいと思う心が芽生えてきました。晴れて合格を果たした今、その思いを通訳案内士として実行することができて嬉しく思っています。全国に先駆けて長崎県が導入したこの試験の機会をみなさまにもぜひ生かしていただきたいと願います。

Fさん

第1回目の試験ということ、試験があることを知ってから本番まで2ヶ月足らずしかない、暑い夏の受験準備等マイナス面ばかりでたぶん記念受験になるだろうけれど出来るところまで頑張ってみようと思いました。長年ボランティア通訳をしてきましたから、法律が変わって地方自治体による第1回目の試験を受けることが私には意義があったのです。

「長崎検定」、「公式参考書」をノートまとめしてから事前講座を4回すべて受けました。講師の先生方はとても分かりやすく、面白く長崎県関連の日本史、地理、経済を説明してくださいました。佐世保の長崎県立大学、シーボルト大学で久しぶりに大学生になったつもりで楽しみました。この楽しむということが大事だと思います。不合格になっても楽しめればまたチャレンジしてみようと思えるからです。

年代、数字（観光客数、予算、降水量など）をもっと整理しておぼえておけばよかったと思います。写真と名前、場所を関連づけて憶えるとよいでしょう。英語はインターネットでBBCニュースをプリントアウトして意味、単語、文法を勉強しました。英次郎、ウイキペディアで日本文化を英語でどのように説明したらよいかまとめました。これは英作文で出ましたのでお勧めします。また英語は過去問がありますから参考書を書店で購入、観光関連の単語を覚えるようにし

ました。英語は主に記述式なので私には向いていると思いました。

1次試験に合格したときはうれしさと同時に2次でだめだったらまた来年になるので欲がでて自分でいろいろな問題を作り1分間で簡潔に英語で説明出来るよう何度も録音器を使って練習をしました。本試験では出島の説明をもとめられました。その他の説明もこれから役に立つので無駄ではないと思っています。

最後になりましたが「成せばなる」を実感、私の受験キーワードは「楽しむこと」、「効率良い自分に合った勉強方法」、「集中すること」です。

なにか1つでも参考になれば幸いです。

Gさん

故郷、長崎のことをよく知らないまま過ごしている、と常々気になっていたところ、県地域限定通訳案内士試験があること知り、勉強する良いチャンスだと受験を思い立ちました。テキストを購入したものの、その膨大な内容に圧倒されて手が付かず、来年合格を目指そうかな、というつもりでした。ところが事前講座を受けたおかげで、歴史、地理、産業等の各分野への興味が開け、良い取っ掛かりとなりました。あらためてテキストを開いてみると、より身近に感じられ、試験対策用ノート作りに着手。

すると膨大に思っていたものが、実は各分野で共通している部分があり、思った以上にスムーズに進んだのです。

勉強法に関しては、テキストの太字の重要事項を覚える他、出てきた地名は、場所を地図で確認すること、グラフや写真も注意深く見ておかれることをお勧めします。問題数に対する時間は、余裕があります。準備さえしておけば、決して難解なものではないと思います。

一次試験の英語筆記に関しては、英検1級を取得しているため、免除でした。二次の口頭試験については、英語による観光案内書を集めて、準備されると良いと思います。

年々、地域限定通訳案内士が着実に増えて、長崎の浮揚を後押しする大きな力になっていくことを願っています。

韓国語合格者から

Hさん

私の韓国語勉強は長崎国際交流協会の講座から始まった。そこで先生役をしてくれた韓国の若者達は素晴らしい人達であった。韓国語より、彼等の人柄に惹かれた。率直であり、自分なりの考えを持つ若者達に会うのは毎週の楽しみの一つになった。そして、韓国語が日本語と全くと言えるほど似た言語であることも驚きであった。歴史的交流の深い隣国であるので当然なのに、50歳を過ぎるまで知らずにいたことが恥ずかしくもあった。講座が終わって行った韓国旅行、街にあふれたハンゲルの看板を小学生のように声を出して読みながら、ハンゲル酔いも味わった。3年程は入門、初級の繰り返しであった。その時から何故か、「韓国語は難しい。」という言葉は一度も言ったことはない。ハンゲルに対する興味が難しさを越えていたのかもしれない。難しい事が無かったわけではない。でも、難しいと言ったら、そこで止まる気がしたのだ。

四年程して、四月恒例の帆船祭が始まった。日韓親善協会のコレアナ号乗組員の歓迎会に参加した。その時、講座の先生が通訳をしてくれと冗談のように言った。韓国の若者から誘いをかけられて断るのはどんなものかと思い、不安な気持ちで始めた。案の定、途中で頓挫、それを3年繰り返した。そのつど勧めてくれた先生に感謝である。

読書が好きなこともあり、日韓対訳文庫から始めた。その中の日本の『小学校教書選』は今でも私の愛読書である。そして、『ムゲンファ コッチ ピオスミダ』という本を読んで衝撃を受けた。「だるまさんが転んだ」の意味を持つこの本は、日韓の今にも起こるかもしれない戦争の緊迫感を書いたものであった。外から日本がどう見えるかを教えてくれた本であった。それから釜山に行き、手当たりしだい本を買ってきて読んだ。韓国語は辞書を引けばほとんどが理解できるとも思ったのはこの頃だ。そして衛星による韓国語 TV は耳を鍛えてくれた。何故か、韓国語は字幕を見ながらも音が聞こえるのである。長く勉強した英語とは全く違った。そんな意味で、韓国語はストレスのない外国語だと思うようになった。ストレスを感じない外国語学習などあっていいのだろうか。先生の勧める韓国語能力試験を受けた。やはり試験はストレスであった。でも、試験前二ヶ月程はいい勉強になった。スピーチ大会にも参加した。本来緊張癖のある人間なので、いい成績ではなかった。でも、下手な発音が少しは良くなったかもしれない。

ガイド試験については仕事をしていたこともあり、あまり積極的ではなかった。中国語を勉強しようという浮気心もあって、韓国語をおろそかにしていた。昨年韓国での平和行進に参加し、韓国人と色々話し合った。そして、戻ると長崎で地域限定ガイド試験があると聞き、何故か受けようかと思った。試験を受けるにはまず勉強。残念ながら、参考書もない。過去問題集が一つ出版されていた。韓国語を書く事などほとんどなかったので、書くことに専念した。それも、過去問題集を一月繰り返し勉強した。幸い合格、いい勉強をしたと思った。また、韓国語にはまれる。少しの勇気、難しくないと思う気持ち、そして何よりも素晴らしい若者達に出会ったことが私を支えてくれたようだ。

長崎県地域限定通訳案内士試験についての受験感想

昔からガイドさんのことを素敵に思っていました。それより昔に好きな言葉がありました。

——穿最好的鞋，因为这双鞋会带你去世界上最美丽的地方。「とびきりいい靴を履こう、この靴は、世の中一番綺麗なところに連れて行ってあげるから。」

履き心地のいい靴のように、いい通訳案内士は、お客様に気遣い、安心・快適・愉快的な旅を提供しなくてはならないと私 생각합니다。

幸運なことに2007年度長崎県地域限定通訳案内士の試験に合格することができました。これから通訳案内士としての長い道のりがありますが、受験に関していささか感想を話したいと思います。

長崎県地域限定通訳案内士試験は、長崎県からの出題3科目（歴史、地理、文化産業経済）、それに国家統一試験の外国語が加わり、合計4科目になります。

外国人としてこの試験を受けましたので、特に長崎歴史、地理の勉強に苦勞しました。長崎市に住んでいますが、長崎県全体の範囲はとても広く、長崎市以外の市町村、離島などを含め全て勉強しなければなりません。日本歴史における長崎という視点から勉強すると、その特徴を理解しやすく、全体像を把握しやすいかもしれません。

地理の勉強に関しては、やはり県内いろいろなところに、時間があれば一度でもぜひ足を運んで現場を見てみた方が良いと思います。知らない地名、地図など地理的なことを何もかも暗記に頼るより、一度実際に行ってみての方が断然覚えやすいし、何より通訳案内士を目指しているなら、実務の経験はとても大事です。自分の感情を含めた観光案内はきっとお客様にも感動を与えることになるでしょう。

文化・産業・経済については、日常の長崎生活に触れることが多いので、比較的にわかりやすいと思いますが、肝心の数字データなどはしっかり覚えておく必要があります。

最後、外国語(私の場合は中国語)についてですが、中国人ですから、中国語の試験は絶対大丈夫と思ったら大間違い。日本語と中国語の両国語で出題されますので、高度な中国語および日本語が必要となります。日頃から、新聞やニュースなどによく目を通して、流行語や専門語の勉強を心掛けた方がよいでしょう。

以上簡単ですが、皆様方のご参考になりましたら幸いに思います。